

法光寺



本堂外観



本堂内陣

今日山 法光寺は、本願寺浅草御堂（江戸 浅草横山町）落成とされる元和三年（一六一七）、開基 宗金によって御堂寺内の一院として創建された。（尚、浅草御堂は西本願寺浜町別院または浜町御坊とも呼称される。）ところが、明暦三年（一六五七）の大火（振袖火事）により、浅草御堂とともに法光寺も堂宇を焼失しました。その後、幕府は西本願寺に対し、八丁堀先の海辺を代地として指定、本願寺はその地を埋め立て、そこに御堂が再建されました。この御堂が、現在の築地本願寺の始まりに当たります。法光寺も本願寺の意を受け、同じく江戸築地に移転、堂宇を建立しました。

それより三〇〇有余年、築地の地（東京都中央区）において、歴代住職が築地本願寺を守護しつつ、当寺の法灯を継承するも、しばしば火災・天災等の害を蒙ったようです。

近年では、大正十二年（一九三三）、関東大震災によって被災をするも、昭和六年（一九三一）、本堂等を再建しました。

そして、昭和の世界大戦においても、都心にながら堂宇を守り、歴史を重ねてまいりましたが、去る昭和六十三年（一九八八）、不慮の火災にて本堂を焼失、当寺再建にあたり、寺基を築地より越谷市へ移転することとなりました。

しこうして平成五年（一九九三）、現在地（埼玉県越谷市三野宮）に本堂・伽藍が竣工、併せて墓地の移転も完了しました。

さらに、平成六年（一九九四）四月十日、法光寺 本堂・伽藍 落成慶讃法要を厳修、名実ともに、埼玉県における当寺の新しい歴史が始まりました。

尚、宗派において、法光寺の所屬が、東京教区中組より埼玉組に編入することが、平成十三年（二〇〇二）一月に承認されました。



写楽 記念碑